

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が27日に大樹航空宇宙実験場で行った大気球放球実験で、重量296kgのポリエチレン製気球が回収予定の十勝沖近海ではなく、広尾町内の山中に落下した。人畜に被害はないという。今後予定している3つの実験については、原因究明後に再開する見通し。

JAXAが実験

実験は高エネルギー電子・陽電子などの観測が目的。最大膨張時で体積10立方メートル、直径63・4センチの気球に「BOULET-2」と呼ばれる観測機器をつり下げた。上空での実験後、観測機器は午前11時45分までに気球から切り離され、パラシュートで十勝沖近海に降下。気球も、破裂させて同時刻ごろに海上で回収する予定だった。

JAXAによると、切り離し時点の気象条件の問題はなく、何らかの原因で気球の降下速度が想定より遅くなったため、陸側に流された。切り離し後に気球の動きに異常を察見、飛行経路を追尾し、関係機関に連絡するなどして対応。気球はその後、早い時期に回収したい考え。落

大気球、広尾山中に落下 被害なし

下現場は桑古川上流の国有林内とみられる。JAXAの宇宙科学研究本部大気球実験班は「原因を究明し、対応策を検討した上、実験を再開したい」としている。

JAXAはこれまで同実験場で計6回の放球実験を行っているが、気球などが陸地に降下したのは初めて。広尾町は今後このようなことがないよう、きちんと対策を講じてほしいとしている。

データ取得は成功

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、27日に大樹航空宇宙実験場で行った高エネルギー電子や大気ガンマ線の観測で、各種データの取得に成功した。

今年度第2次気球実験の2基目。観測を通じ、宇宙空間の正体不明な暗黒物質の謎に迫るのが狙い。この日は高度約34kmで気球を水平飛行させながら、宇宙から飛来する高エネルギー電子・陽電子の時間半ほどの観測。気球上昇中にも、高エネルギーの大気ガンマ線データを取った。実験グループは早稲田大や神奈川大、JAXAなどで構成している。

(佐藤圭史)